四日市版コミュニティスクール報告書（令和４年度総括）

四日市市立大矢知興譲小学校

校長　　坂下　亮介

１　コミュニティスクール（学校運営協議会）のねらい

本校では、学校づくりビジョンに「主体的に活動する興譲っ子の育成」を掲げ、学校・家庭・地域が協働して、興譲の意義を受けつぐ“保護者・地域とともに育つ学校”　～保護者・地域に信頼される学校～を目指した取り組みを推進している。

学校運営協議会（興譲協議会）で協議・提言された具体的な内容について、学校運営に反映させるよう努めている。学校運営を様々な切り口で具現化を図っていくため、今年度も学校運営協議会の構成委員の見直しを図り、協議会組織の充実した体制づくりに努めてきた。また、コミュニティスクールとしての具体的な動きの一つとして、学校支援ボランティア制度に重点を置き、活動の充実に向けて学校運営協議会で話し合いを重ねてきた。

２　コミュニティスクールとしての実践について

（1）教育活動の実践事例

【地域の名所巡りと体験学習】

◇興譲協議会委員からは、地元にある名所・旧跡を積極的に学習に活かしてほしいという声をいただいている。今年度も6年生の歴史学習の一環として、久留倍官衙遺跡を訪ねた。地元にある久留倍官衙遺跡は、奈良時代にあった役所跡と考えられ、国の史跡に指定されている。「くるべ古代歴史公園」や「くるべ古代歴史館」を見学し、地元の歴史に触れることができた。また、見学を通して学んだことを「くるべ古代歴史公園」を紹介するポスターとしてまとめ、館内に掲示してもらうことができた。さらに、一連の学習として、「くるべ古代歴史館」の方から「勾玉づくり」を体験させていただき、学習を深めることができた。

【地域の田んぼで米づくり】

◇5年生の「米づくり体験」学習では、地域の農業経営者の方にご協力いただき、田植え体験を実施することができた。収穫は農業経営者の方にしていただいたが、収穫したお米は秋の自然教室に持っていき、飯ごう炊さんで食することができた。米作りの流れを体感できたこと、地域の方が大切に育て上げたお米に感謝する機会を得て、一連の「米づくり体験」を締めくくることができた。

【地域の方による学習支援】

◇職員のニーズに応じて、学校支援ボランティア登録者の中から、裁縫（ミシン）と野菜づくりの学習支援をしていただいた。裁縫では、5・6年生に対して操作の基礎を丁寧にサポートしていただき、野菜づくりでは、3年

生の理科教材に使うキャベツを育てるために、日常の手入れの仕方を児童に丁寧に指導していただいた。また、夏には専門的技能を有する地域の方に水泳授業での指導補助をしていただき、授業のねらいに迫る大きな成果を上げることができた。児童にとっては馴染みのある方なので、安心した雰囲気の中で活動できたことも大きかった。今後もぜひお力添えいただきたいと考える地域人材である。

【保護者による図書修繕支援】

◇毎週火曜日に図書館司書の協力のもと、学校支援ボランティア（保護者）による本の修繕作業をしていただいた。大規模校である本校では、人気のある本がすぐに傷んでしまうという長年の課題があった。そこで、登録していただいている学校支援ボランティアの保護者に声をかけ、毎週決まった時間帯を作業時間として設定し、都合に合わせて自由に来校していただいた。毎回4～5名の方が作業にあたり、修繕が必要な図書を大幅に減らすことができた。興譲協議会委員の方にも参加いただき、取組の効果を実感していただいた。来年度以降も継続していきたい取組と考える。

(2) コミュニティスクールの取り組みによる効果

本年度も、数多くの保護者・地域の皆様から、安全面での見守り活動や、学習活動、特別活動などのご支援をいただいた。学校支援ボランティアでは、新たな保護者・地域の方に登録をいただき、様々な活動場面で教育効果を高めることができた。新規登録者の広がりは、本校の学校支援ボランティア活動の浸透を意味するものであり、活動が軌道に乗ってきた証であると考える。コロナ禍の出口が見えない中でありながら、昨年度比10％増の年間延べ200名以上の皆様にご支援いただいたことは大きな成果として挙げられる。

学校・家庭・地域をつなぐ重要な組織として、本校の興譲協議会の役割が一層明確になり、児童が地域のぬくもりを感じながら「ふるさと大矢知」に愛着と誇りをもって学ぶ環境が整ってきたといえる。

３　今後に向けて

本校の学校運営協議会「興譲協議会」では、日常的な児童の姿を検証し、また学校運営の課題を明らかにしながら、その解決に向けた学校中枢の協議組織として、今後も学校・家庭・地域の協働を力強く推進していきたいと考える。そのためには、協議会で承認いただく学校づくりビジョンの実現に向けて、具体的な取組内容と成果指標を示しながら、その目標の進行管理を丁寧に行っていく必要がある。その一つとして、校務分掌上の各推進部における重点目標を設定し、年度末の成果指標と照らし合わせた自己評価に対して、協議会で協議していただいた。更なる改善点など、多くのご意見をいただき、来年度の新たな目標設定につながる貴重な場となった。

また、今年度も小中連携の視点から「中学校区拡大学校運営協議会」を開催した。委員からは中学校区の各校の活動を共有できる機会として好評を得ることができたので、来年度も継続して開催し、小中連携強化に努めていきたいと考える。